

科 目 名	プログラミング I・II		科目分類	専門 選択
(ふりがな)			開講年次	2 年
氏 名	ゆ 湯	かわ 川	開講期間	前期・後期
		たかし 崇	修得単位	各 1
<b>授業概要</b> Visual Basic 言語を用いたプログラミングによる論理的思考の訓練を目的とする。Visual Basic は Windows で動作するプログラムを簡単に作成することができるプログラミング言語である。この言語により、与えられた問題の分析、解決手法の組み立て、プログラム作成、プログラム誤りの修正といったプログラミングの過程を通して、問題解決のための論理的な考え方を修得する。				
授業方針と留意点	授業中は学習内容に集中すること。授業に無関係の行為をするものは出席を取り消す。遅刻をしないこと。			
授業計画 前 期		授業計画 後 期		
第1回 パソコンとプログラム 〔キーワード〕		第1回 アルゴリズムの基礎(1) 〔キーワード〕		
第2回 プログラムの基本構造 〔キーワード〕		第2回 アルゴリズムの基礎(2) 〔キーワード〕		
第3回 入出力と演算 〔キーワード〕		第3回 データ構造の基礎(1) 〔キーワード〕		
第4回 代入文・変数 〔キーワード〕		第4回 データ構造の基礎(2) 〔キーワード〕		
第5回 組み込み関数 〔キーワード〕		第5回 配列を使ったソートとサーチ(1) 〔キーワード〕		
第6回 基本的なデータ型 〔キーワード〕		第6回 配列を使ったソートとサーチ(2) 〔キーワード〕		
第7回 配列の利用 〔キーワード〕		第7回 配列を使ったソートとサーチ(3) 〔キーワード〕		
第8回 プログラムの流れとフローチャート 〔キーワード〕		第8回 リストと木(1) 〔キーワード〕		
第9回 条件分岐 〔キーワード〕		第9回 リストと木(2) 〔キーワード〕		
第10回 繰り返し 〔キーワード〕		第10回 リストと木(3) 〔キーワード〕		
第11回 文字列操作関数の利用 〔キーワード〕		第11回 ランダムアクセス 〔キーワード〕		
第12回 関数の作成 〔キーワード〕		第12回 シーケンシャルアクセス 〔キーワード〕		
第13回 ファイルの操作(1) 〔キーワード〕		第13回 インデックスファイルの利用 〔キーワード〕		
第14回 ファイルの操作(2) 〔キーワード〕		第14回 エラー処理 〔キーワード〕		
第15回 ファイルの操作(3) 〔キーワード〕		第15回 まとめ 〔キーワード〕		
テキスト	山本信雄著、「Visual Basic Vol.1はじめてのプログラミング」、SHOEISHA 山本信雄著、「Visual Basic Vol.2はじめてのアルゴリズムとデータ構造」、SHOEISHA			
参考図書				
評価方法	出席および課題の提出状況をもとに評価する			

科 目 名	コンピュータ利用技術	科目分類	専門 選択
(ふりがな)		開講年次	2 年
氏 名	おさない しょうじ 小山内 幸治	開講期間	後 期
		修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>「コンピュータを活用した情報整理とプレゼンテーション」がテーマである。</p> <p>授業は、約一ヶ月毎に組み替えるグループ形式で行い、課題が与えられる。学生は、グループ毎に協力して、それまでに学んだ、あるいは平行して修得中であるコンピュータの知識全てを総動員して、課題に取り組み、その結果を発表してもらう。この過程を通して、コンピュータを自らの意思で利用し、その結果を効果的に発表する方法について、体得してもらう。</p> <p>なお、最終課題には、個人で当てもらう。</p>			
授業方針 と留意点	必要な資料は、自ら何でも集めて来て活用して下さい。		
	<b>授業計画 後 期</b> 第1回 はじめに・プレゼンテーションとは 〔キーワード〕 第2回 PowerPoint 1 〔キーワード〕 第3回 PowerPoint 2 〔キーワード〕 第4回 課題1-準備1 〔キーワード〕 第5回 課題1-準備2 〔キーワード〕 第6回 課題1発表 〔キーワード〕 第7回 プレゼンテーション法1 〔キーワード〕 第8回 課題2-準備1 〔キーワード〕 第9回 課題2-準備2 〔キーワード〕 第10回 課題2発表 〔キーワード〕 第11回 プレゼンテーション法2 〔キーワード〕 第12回 個人課題-準備1 〔キーワード〕 第13回 個人課題-準備2 〔キーワード〕 第14回 個人課題発表1 〔キーワード〕 第15回 個人課題発表2 〔キーワード〕		
テキスト	指定しない		
参考図書	指定しない		
評価方法	出席、グループでの貢献度、グループ発表の内容、個人課題の発表の内容に拠る。		

科 目 名	ネットワーク演習	科目分類	専門 選択
(ふりがな)		開講年次	2 年
氏 名	ゆ かわ たかし 湯 川 崇	開講期間	後 期
		修得単位	1
<b>授業概要</b> <p>サーバコンピュータの構築を通じて、インターネットや社内ネットワークで動作するサーバコンピュータの管理者を養成するための演習である。演習に使用するコンピュータの組み立てからはじめ、オペレーティングシステムのインストール、各種サーバソフトウェアのインストール・設定について学習していく。コンピュータの利用者やディスク装置の管理や、ログの解析方法など実際の運用に役立つ知識についても扱う。</p>			
授業方針 と留意点	授業中は学習内容に集中すること。授業に無関係の行為をするものは出席を取り消す。遅刻をしないこと。		
	<b>授業計画 後 期</b> 第1回 コンピュータの組み立て(1) 〔キーワード〕 第2回 コンピュータの組み立て(2) 〔キーワード〕 第3回 オペレーティングシステムのインストール(1) 〔キーワード〕 第4回 オペレーティングシステムのインストール(2) 〔キーワード〕 第5回 利用者の登録と管理 〔キーワード〕 第6回 環境設定 〔キーワード〕 第7回 Xウィンドウシステムの設定 〔キーワード〕 第8回 コマンドの利用 〔キーワード〕 第9回 エディタの利用 〔キーワード〕 第10回 ネットワークへの接続(1) 〔キーワード〕 第11回 ネットワークへの接続(2) 〔キーワード〕 第12回 ネームサーバ設定 〔キーワード〕 第13回 メールサーバ設定 〔キーワード〕 第14回 スクリプト言語(1) 〔キーワード〕 第15回 スクリプト言語(2) 〔キーワード〕		
テキスト	授業開始時に指示する		
参考図書			
評価方法	出席および課題の提出状況をもとに評価する		

科 目 名	経 済 英 語	科目分類	専 門 選 択
		開講年次	2 年
(ふりがな)	まつ 村 たけ し	開講期間	通 年
氏 名	松 村 岳 志	修得単位	4
<b>授業概要</b> <p>この授業では初歩的な経済学のテキストを用いて、英語と経済学との初歩的な知識の修得をねらう。受講者は、4月に配布するプリントを、毎回辞書を用いて翻訳し、ノートに記入した上で授業に参加する。ノートの作り方は第1回の授業で指示する。授業の中では各人の訳を発表してもらい、英文法あるいは経済学理論の誤解があった場合にはその都度訂正し、いずれも体系的に解説する。したがって、毎回相当な時間をかけて予習を行うことが必要である。英語ならびに経済学の実力がつくことは期待できるが決して楽勝科目ではない。なお、毎回必ず辞書を持ってくること。</p>			
<b>授業方針と留意点</b>		受講者は必ずノート、辞書を用意し、毎回きちんと予習すること。	
<b>授業計画 前期</b>		<b>授業計画 後期</b>	
第1回 Why study economics? 〔キーワード〕	第16回 The general-equilibrium system 〔キーワード〕	第2回 For whom the bell tolls? 〔キーワード〕	第17回 A picture of prices and markets 〔キーワード〕
第3回 What economics is 〔キーワード〕	第18回 Imperfections of competition 〔キーワード〕	第4回 Quality of economic life 〔キーワード〕	第19回 Economic role of government 〔キーワード〕
第5回 Light and fruit 〔キーワード〕	第20回 Capital, division of labor, and money 〔キーワード〕	第6回 The queen of the social sciences 〔キーワード〕	第21回 Capital and private property 〔キーワード〕
第7回 Economic description and analysis 〔キーワード〕	第22回 Specialization, exchange, and division of labor 〔キーワード〕	第8回 Economic policy and re form 〔キーワード〕	第23回 Specialization and Alienation 〔キーワード〕
第9回 Methodology of economics 〔キーワード〕	第24回 Specialization and interdependenc 〔キーワード〕	第10回 Central problems of every economic society 〔キーワード〕	第25回 The use of money 〔キーワード〕
第11回 Problems of economic organization 〔キーワード〕	第26回 The market mechanism 〔キーワード〕	第12回 The technological choices open to any society 〔キーワード〕	第27回 The demand schedule 〔キーワード〕
第13回 The underlying population basis of any economy 〔キーワード〕	第28回 The demand curve 〔キーワード〕	第14回 Mixed economy 〔キーワード〕	第29回 Downward-sloping demand 〔キーワード〕
第15回 The invisible hand and "perfect competition" 〔キーワード〕	第30回 The supply schedule 〔キーワード〕		
テキスト	プリント教材		
参考図書			
評価方法	出席状況と予習の程度とを総合して評価する。		

科 目 名	プレゼンテーション演習	科目分類	専門 必修
		開講年次	2 年
(ふりがな) 氏 名	えびかわすみお おきないこうじ 海老川寿美夫・小山内幸治	開講期間	前 期
		修得単位	1
<b>授業概要</b> <p>自分の考えを正確に相手に伝えることは、非常に重要なことであるが、同時に非常に難しいことでもある。実社会などでは、世代の違う人に自分の考えを説明する必要が生じることが実は沢山でてくる。同世代の知人・友達には感覚的な説明でも十分に理解してもらえるかもしれないが、世代や考え方を異にする人に、効率よく自分の考えを説明したり、説得したりするには、ある程度の技術と訓練が必要である。</p> <p>この演習では、コンピュータに関連したプレゼンテーションについて小山内が、プレゼンテーション技術の磨き方及び説得力のある態度と話し方の内容について海老川がそれぞれ分担して担当する。</p>			
授業方針 と留意点	コンピュータに関連したプレゼンテーションでは、海老川担当のところは、一人ひとり前に立って実際にパフォーマンスをしてもらいます。		
授業計画	前 期		
第1回	プレゼンテーションの概要と準備 〔キーワード〕		
第2回	パワーポイントの基礎 〔キーワード〕		
第3回	パワーポイントの応用 〔キーワード〕		
第4回	プレゼンテーションのテクニック 〔キーワード〕		
第5回	プレゼンテーションの実践 自分を知る 〔キーワード〕		
第6回	プレゼンテーションの実践 自分を表現する 〔キーワード〕		
第7回	プレゼンテーションの評価 〔キーワード〕		
第8回	プレゼンテーションの必要性 〔キーワード〕 口頭によるコミュニケーションの重要性、言えばわかるとは限らない		
第9回	プレゼンテーション・マインドを高める 〔キーワード〕 相手お心を読む、目・言葉の役割		
第10回	人を動かすプレゼンテーションの心構え 〔キーワード〕 情熱と熱意が人を動かす		
第11回	プレゼンテーション・プログラムを設計する 〔キーワード〕 プレゼンテーション・プログラム及びその設計プロセス		
第12回	演出力を身につける 〔キーワード〕 企画書、空間の演出		
第13回	プレゼンテーションの進め方 〔キーワード〕 効果的な発問方法、質問や意見に適切に対処する		
第14回	上達の決め手—評価とフィードバック 〔キーワード〕 フィードバック・シート		
第15回	総合演習—プレゼンテーションのコンテスト(グループ単位) 〔キーワード〕		
テキスト	30時間でマスタープレゼンテーション+パワーポイント(実教出版)		
参考図書	特になし		
評価方法	出席・課題・プレゼンテーション内容を総合して評価		

科 目 名	暮らしと衛生 I	科目分類	専門 必修(保育士専修)
(ふりがな)		開講年次	2 年
氏 名	さくら だ のり もと 櫻 田 紀 元	開講期間	前 期
		修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>個人の健康管理は、生活環境を理解把握し、身体の抵抗力をつけた病気に対する抵抗力を付けておくことが大事である。病気の早期発見・早期治療などの個人衛生に関心をもって健康生活を送るための基礎的な衛生管理と身近な話題を基に取上げた暮らしと衛生を考える。</p>			
授業方針 と留意点	<b>授業方針</b> 健康管理と生活環境とのかかわりを学び健康生活への手がかりを理解する <b>留意点</b> 感染症と健康障害・疫学的な要因を理解する		
授業計画	前 期		
第1回 健康管理と微生物 (I)	[キーワード]		
第2回 健康管理と微生物 (II)	[キーワード]		
第3回 生活環境と微生物 (I)	[キーワード]		
第4回 生活環境と微生物 (II)	[キーワード]		
第5回 感染症と予防対策 (I)	[キーワード]		
第6回 感染症と予防対策 (II)	[キーワード]		
第7回 感染症と予防対策 (III)	[キーワード]		
第8回 感染症と免疫	[キーワード]		
第9回 伝染病予防と関連法規	[キーワード]		
第10回 疫学・医学統計 (I)	[キーワード]		
第11回 疫学・医学統計 (II)	[キーワード]		
第12回 食生活と衛生管理 (I)	[キーワード]		
第13回 食生活と衛生管理 (II)	[キーワード]		
第14回 食生活と衛生管理 (III)	[キーワード]		
第15回 総括	[キーワード]		
テキスト			
参考図書	随時紹介する		
評価方法	出席を重視し、レポート、定期試験により総合的に評価する。		

科 目 名	暮らしと衛生II		科目分類	専門 必修
(ふりがな)			開講年次	2 年
氏 名	さくら	だ	のり	もと
	櫻	田	紀	元
			開講期間	後 期
			修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>個人の健康管理は、生活環境を理解把握し、身体の抵抗力をつけた病気に対する抵抗力を付けておくことが大事である。病気の早期発見・早期治療などの個人衛生に関心をもって健康生活を送るための基礎的な衛生管理と身近な話題を基に取り上げた暮らしと衛生を考える。</p>				
授業方針 と留意点	<b>授業方針</b> 健康管理と生活環境とのかかわりを学び健康生活への手がかりを理解する。 <b>留意点</b> 感染症と健康障害・疫学的な要因を理解する。			
	<b>授業計画 後 期</b>			
	第1回 人畜共通感染症 (I) <small>〔キーワード〕</small>			
	第2回 人畜共通感染症 (II) <small>〔キーワード〕</small>			
	第3回 生活環境と衛生動物 (I) <small>〔キーワード〕</small>			
	第4回 生活環境と衛生動物 (II) <small>〔キーワード〕</small>			
	第5回 消毒の意義と方法 <small>〔キーワード〕</small>			
	第6回 生活習慣病と予防 (I) <small>〔キーワード〕</small>			
	第7回 生活習慣病と予防 (II) <small>〔キーワード〕</small>			
	第8回 母子と保健 <small>〔キーワード〕</small>			
	第9回 高齢者と疾病 <small>〔キーワード〕</small>			
	第10回 身近な健康への視点(食べ物) <small>〔キーワード〕</small>			
	第11回 身近な健康への視点(食べ物) <small>〔キーワード〕</small>			
	第12回 身近な健康への視点(嗜好品) <small>〔キーワード〕</small>			
	第13回 身近な健康への視点(嗜好品) <small>〔キーワード〕</small>			
	第14回 身近な健康への視点(感染症) <small>〔キーワード〕</small>			
	第15回 総括 <small>〔キーワード〕</small>			
テキスト				
参考図書	随時紹介する			
評価方法	出席を重視し、レポート、定期試験により総合的に評価する。			

科 目 名	地 域 文 化 論	科目分類	専 門 選 択
		開講年次	2 年
(ふりがな) 氏 名	かま だ ゆき お 鎌 田 幸 男	開講期間	前 期
		修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>地域をどのように考えるか大きな課題である。辞書的解釈からすると区画された一定の土地、区域をさすが、ここでは地域社会として考える。それはある一定の社会的特徴をもつ地域的範囲の上に成立している生活共同体（広辞苑）ということになる。こうした地域には様々な文化が形成されてきた。ここでは特に日本海沿岸地域をとりあげる。そこには雪とのかかわりで発達した、例えば農耕、狩猟、漁労などの伝統的な民俗文化の諸相がある。</p> <p>本講義では、暮らしの中から生まれた民俗文化に視点をおくが、単に民俗文化を知るばかりでなく、そうした文化を通じて人々は何を考えどのように生きようとしたかを考える。生活文化が地域社会に根づいた1つの理由もそこにある。</p>			
<b>授業方針 と留意点</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗的視点からどのような文化が形成されたか。</li> <li>・雪国の中で生きる知恵、喜びとは。</li> </ul>	
<b>授業計画 前 期</b>			
第1回 雪国と暮らし			
〔キーワード〕 自然環境と気候			
第2回 北前船の往来 (1)			
〔キーワード〕 日和山、方角石、問屋			
第3回 北前船の往来 (2)			
〔キーワード〕 風名、民謡			
第4回 河川の交通			
〔キーワード〕 文化の伝播路			
第5回 漁船			
〔キーワード〕 丸木舟、川崎船、テント船			
第6回 水産資源から (1)			
〔キーワード〕 ハタハタ、鱈			
第7回 水産資源から (2)			
〔キーワード〕 水産漁業、ウタセ網			
第8回 漁民の心意			
〔キーワード〕 魚供養碑、鮭塚			
第9回 鯨場への出稼 (1)			
〔キーワード〕 網元、漁夫、契約			
第10回 鯨場への出稼 (2)			
〔キーワード〕 文化の伝播、影響			
第11回 狩猟の生活			
〔キーワード〕 マタギ			
第12回 農家・町家・漁家のこと			
〔キーワード〕 形態、間取り			
第13回 交易のこと			
〔キーワード〕 朝市、正月市、盆市			
第14回 生活芸術のこと			
〔キーワード〕 藁、木二			
第15回 正月の行事 (1)			
〔キーワード〕 小正月の訪問者			
<b>テキスト</b>			
<b>参考図書</b>		講義時に必要な資料を配布する。『市町村史』(民俗)。	
<b>評価方法</b>		定期試験、出席状況、授業態度より総合的に評定する。 レポートを課すこともある。	

科 目 名	社 会 流 行 論	科 目 分 類	専 門 選 択
(ふりがな)		開 講 年 次	2 年
氏 名	かま だ ゆき お 鎌 田 幸 男	開 講 期 間	後 期
		修 得 単 位	2
授 業 概 要			
<p>1960～90年に至る30年間の高度経済成長の波は、日本の産業構造を変革し日本人の生活と暮らしを大きく変えたといえる。電化製品、乗用車の普及率は急上昇し消費革命は農村をもまきこんで進行した。こうした面からこの30年間の生活の変容をみると「すべての家庭に普及する広がり」をみせたところに特徴があろう。まさしく生活の変革といえる。反面過疎と過密、住宅難、交通戦争、公害などを産むことにもなる。また1990～2000年に至る10年間は、バブル崩壊と共に景気回復が大きな課題となった。</p> <p>本講義では、変容する衣・食・住・道具の四領域において考えようとするものである。</p>			
授 業 方 針 と 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1960年代の高度経済成長の波が農村に浸透したことを考える。</li> <li>・具体的にどのような影響があったかに着眼する。</li> </ul>		
	授 業 計 画 後 期		
	第1回 おしゃれな衣服 (キーワード) おしゃれは若者から/ヤング市場		
	第2回 インスタント食品登場 (キーワード) 即席ラーメン/レトルト食品/食品公害		
	第3回 マイホーム時代 (キーワード) 2DK/団地生活		
	第4回 プレハブ住宅登場 (キーワード) プレハブ		
	第5回 家電普及 (キーワード) 3C時代(車、テレビ、クーラー)		
	第6回 ふだん着感覚で (キーワード) ファッション化社会		
	第7回 外食チェーン産業台頭 (キーワード) ハンバーガー/ファミリーレストラン/消費者と生産者		
	第8回 住宅産業の確立へ (キーワード) カプセル住宅/プレハブのファッション化		
	第9回 小型化した道具時代へ (キーワード) 電卓/日常の小道具		
	第10回 道具再考 (キーワード) 使い捨て/家電限界		
	第11回 日常着の工夫 (キーワード) 基本から考える/好きな物を着る		
	第12回 ハイテクと食品 (キーワード) コピー食品/バイオ野菜		
	第13回 住まい方の工夫 (キーワード) セルフビルド/新しい共同生活		
	第14回 エレクトロニクス氾濫 (キーワード) コンピューターが家庭へ/AV生活		
	第15回 情報化の時代 (キーワード) テレカ/携帯電話/ファクシミリ/システム手帳		
テ キ ス ト			
参 考 図 書	『モノ誕生「いまの生活」』(水牛くらぶ)・各種新聞		
評 価 方 法	定期試験、出席状況、授業態度等総合的に評価する。 レポートを課すこともある。		

科 目 名	生活と環境		科目分類	専門 選択
(ふりがな)	ひろ	かわ	ただ	お
氏 名	廣	川	忠	男
			開講年次	2 年
			開講期間	後 期
			修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>これまですべての生物は環境に適応して生活し、環境と調和することによって生存してきた。しかしながら、いま私たちの生活環境は、水・空気・食糧・気候など、その生存に最も大切な条件において憂慮すべき事態に陥っている。</p> <p>今日の急激な環境の変容が、ヒトという生物種の特異な生活様式に起因しているとするならば、環境問題の解決策は、私たち人類の英知に依存しているといわねばならない。</p> <p>本講では、環境と生命の関わり合いについて学習しながら、人間の生活の在り方について考えたいと思う。</p>				
授業方針 と留意点	① 主として自然環境を取り扱う。 ② 履修者が10人未満の場合は、演習形式で進める。 ③ 期末にレポートを提出のこと（レポート課題は、講義の初めに提示する）。			
	<b>授業計画 後 期</b>			
	第1回 生活と環境で学ぶこと (キーワード) 環境の定義/自然環境/社会環境			
	第2回 地球の歴史(1) (キーワード) ビッグバン/銀河/太陽系/地球の形成			
	第3回 地球の歴史(2) (キーワード) 大気の世界/海の世界/気候の変遷			
	第4回 生物の歴史(1) (キーワード) 生命の起源/化学進化/共生進化			
	第5回 生物の歴史(2) (キーワード) 動物の進化/植物の進化/オゾン層			
	第6回 ヒトの歴史 (キーワード) 猿人/原人/旧人/新人/文化			
	第7回 生物と環境(1) (キーワード) 生物圏/生態系/制限要因			
	第8回 生物と環境(2) (キーワード) 基礎生産/食物連鎖/生物濃縮			
	第9回 生物と環境(3) (キーワード) 相互依存/相互制約/生物多様性の保全			
	第10回 生物と環境(4) (キーワード) 物質循環/化石燃料			
	第11回 ヒトの生活と環境問題(1) (キーワード) 人口と食糧/ゴミ			
	第12回 ヒトの生活と環境問題(2) (キーワード) 化学物質汚染/環境ホルモン			
	第13回 ヒトの生活と環境問題(3) (キーワード) 酸性雨/温暖化/オゾンホール			
	第14回 ヒトの生活と環境問題(4) (キーワード) 森林減少/絶滅危惧種			
	第15回 ヒトの生活のあり方 (キーワード) アメニティー/環境アセスメント/人間環境宣言			
テキスト	テキストは指定しない。随時プリントを配布してすすめる。			
参考図書	講義の中で関連する参考図書を紹介していく。			
評価方法	期末試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。			

科 目 名	健康運動学		科目分類	専門 選択
(ふりがな)	たき	ぎわ	はる	ひろ
氏 名	滝	沢	晴	弘
			開講年次	2 年
			開講期間	後 期
			修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>近年のめざましい経済成長の結果、経済的・時間的ゆとりをもち、より豊かな生活ができるようになってきた。しかし一方では、食事の摂り過ぎ、運動不足、精神的ストレスの増大等により生活習慣病が増加しつつあります。健康増進の三本柱は栄養・運動・休養と言われ、中でも運動は、体力低下防止、生活習慣病予防に特に有効であり、食べることのみによって、健康を維持することはできないと言っても過言ではない。</p> <p>運動と聞けば競技力向上、記録更新を連想しがちだが、健康のためにはどうしたら良いか？ここに主眼を置いて講義を進めたい。</p>				
<b>授業方針と留意点</b>				
			<b>授業計画 後 期</b>	
			第1回 運動のエネルギーはどうして生まれるか 〔キーワード〕	
			第2回 体力があれば健康と言えるか 〔キーワード〕	
			第3回 運動と身体の仕組み(1) 〔キーワード〕	
			第4回 運動と身体の仕組み(2) 〔キーワード〕	
			第5回 ストレッチング 〔キーワード〕	
			第6回 有酸素運動がなぜ良いか 〔キーワード〕	
			第7回 健康に役立つ運動をするためには 〔キーワード〕	
			第8回 運動をするためには 〔キーワード〕	
			第9回 運動をすればやせられるか 〔キーワード〕	
			第10回 正しいダイエット法と計画(1) 〔キーワード〕	
			第11回 正しいダイエット法と計画(2) 〔キーワード〕	
			第12回 楽しみながら運動をするためには 〔キーワード〕	
			第13回 パワートレーニングとスタミナトレーニング 〔キーワード〕	
			第14回 栄養と運動の関係 〔キーワード〕	
			第15回 まちがったダイエット 〔キーワード〕	
テキスト	池上 晴夫 著 健康のためのスポーツ医学 (講談社)			
参考図書				
評価方法	授業の最初に時間に説明します。			

科目名	保育論Ⅰ	科目分類	専門 選択
		開講年次	2 年
(ふりがな) 氏名	ふく だ けい こ 福 田 佑 子	開講期間	前 期
		修得単位	2
<b>授業概要</b> <p>保育士試験受験科目「保育原理」の内容を中心に学習する。</p> <p>子どもが心身ともに健全い育ち、社会へ適応することが出来るよう保護育成することが、保育士としての仕事となる。そのためには、子どもに関する専門的知識、技術を学び、専門職としての資質を身につける必要がある。資質を身につけるには、一定のレベルに達することが望まれる。保育士としての資質向上が問われている現在、保育の多様なニーズに答えつつも、しっかりとした保育者像を確立するための基礎をも学習する。</p> <p>保育士試験に向けては、周到な準備と努力をし、強い意志を持って臨んでほしい。</p>			
<b>授業方針 と留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習、復習のくり返しが、保育士試験「保育原理」の合格のカギとなる。練習問題と保育所保育指針の内容をくり返し学習すること。</li> </ul>		
<b>授業計画 前 期</b>			
第1回	保育士試験「保育原理」の出題内容について 〔キーワード〕 取組		
第2回	最近の試験傾向 〔キーワード〕 ○×式～記述式		
第3回	保育士試験「保育原理」練習問題(1) 〔キーワード〕 本質／歴史		
第4回	保育士試験「保育原理」練習問題(2) 〔キーワード〕 目標／内容／手法		
第5回	保育士試験「保育原理」練習問題(3) 〔キーワード〕 形態／環境		
第6回	保育士試験「保育原理」練習問題(4) 〔キーワード〕 子ども理解／発達観		
第7回	保育士試験「保育原理」練習問題(5) 〔キーワード〕 保育所保育の内容		
第8回	保育士試験「保育原理」練習問題(6) 〔キーワード〕 保育計画／指導計画		
第9回	保育士試験「保育原理」練習問題(7) 〔キーワード〕 0・1・2歳児の保育内容		
第10回	保育士試験「保育原理」練習問題(8) 〔キーワード〕 3歳以上の保育内容		
第11回	保育士試験「保育原理」練習問題(9) 〔キーワード〕 健康・安全／子育て支援		
第12回	保育士試験「保育原理」練習問題(10) 〔キーワード〕 連携／相談援助		
第13回	保育士試験「保育原理」練習問題(11) 〔キーワード〕 過去問の解説		
第14回	保育士試験「保育原理」練習問題(12) 〔キーワード〕 過去問の解説		
第15回	保育士試験「保育原理」練習問題(13) 〔キーワード〕 過去問の解説		
テキスト	新・保育士養成講座第7巻「保育原理」 全国福祉協議会		
参考図書	授業の際に紹介する。		
評価方法	出席状況、授業参加意欲、定期試験等により総合的に評価する。		

科 目 名	家 庭 教 育		科目分類	専 門 選 択
			開講年次	2 年
(ふりがな) 氏 名	ふく さ ゆう こ 福 田 佑 子		開講期間	通 年
			修得単位	4
<b>授業概要</b> <p>今、保育所保育では、家庭養育の補完と地域の子育て支援という役割を担う必要性がこれまで以上に強まっている。保育士をめざす者にとって、家庭保育の基礎知識は保育の専門性の上でも欠くことが出来ないものとなっている。21世紀に向けて変容する家族・家庭が、子どもが親と情緒的な絆を育て、ふれあいを通して、さまざまな能力や資質を育成する場であるとしてとらえ、その方向性を学習する。</p> <p>この学習は、保育者のみならず人間として、女性としてライフスタイルとの関わりにおいても学習してほしいものである。</p>				
<b>授業方針と留意点</b>				
<b>授業計画 前期</b>			<b>授業計画 後期</b>	
第1回 保育における家族援助 〔キーワード〕 児童福祉～児童家庭福祉へ			第16回 家族援助の方法(1) 〔キーワード〕 意義	
第2回 家庭・家族とは 〔キーワード〕 定義/機能			第17回 家族援助の方法(2) 〔キーワード〕 過程/方法	
第3回 家族のうつり変わり 〔キーワード〕 4つの転換			第18回 家族援助の方法(3) 〔キーワード〕 面接の進め方	
第4回 家族援助とは 〔キーワード〕 役割/その理由			第19回 家族援助の方法(4) 〔キーワード〕 虐待への対応	
第5回 家族をとりまく社会状況(1) 〔キーワード〕 少子高齢化社会			第20回 家族援助の実際(1) 〔キーワード〕 新生児期	
第6回 家族をとりまく社会状況(2) 〔キーワード〕 ライフスタイル/子育て			第21回 家族援助の実際(2) 〔キーワード〕 乳児期/幼児期前期	
第7回 家族との関わり(1) 〔キーワード〕 母と子の出会い			第22回 家族援助の実際(3) 〔キーワード〕 幼児期後期	
第8回 家族との関わり(2) 〔キーワード〕 乳児期の母子関係			第23回 家族援助の実際(4) 〔キーワード〕 学童期	
第9回 家族との関わり(3) 〔キーワード〕 幼児期の母子関係			第24回 家族援助の実際(5) 〔キーワード〕 思春期	
第10回 家族との関わり(4) 〔キーワード〕 学童期の親子関係			第25回 家族援助の実際(6) 〔キーワード〕 発達障害	
第11回 家族援助論(1) 〔キーワード〕 子育て支援体制			第26回 家族援助の実際(7) 〔キーワード〕 DV	
第12回 家族援助論(2) 〔キーワード〕 児童家庭福祉ニーズ			第27回 家族援助の実際(8) 〔キーワード〕 保育所の事例	
第13回 家族援助論(3) 〔キーワード〕 男女共同参画社会			第28回 家族援助の実際(9) 〔キーワード〕 児童養護施設の事例	
第14回 家族援助論(4) 〔キーワード〕 共育/共生			第29回 家族援助の課題(1) 〔キーワード〕 子育て環境	
第15回 保育所と家族援助 〔キーワード〕 子育て不安/ストレス			第30回 家族援助の課題(2) 〔キーワード〕 保育士の専門性	
<b>テキスト</b>				
<b>参考図書</b> 講義の際に適宜紹介する。				
<b>評価方法</b> 出席状況、授業態度、定期試験等により総合的に評価する。				

科 目 名	解剖生理学		科目分類	専門 選択(保育士専修)
(ふりがな)	さくら だ のり もと		開講年次	2 年
氏 名	櫻 田 紀 元		開講期間	後 期
			修得単位	2
<b>授業概要</b> 身体を構成する各部にはいろいろな器官があり、各器官にはまた多くの名称が付けられている。各部を構成する物体の形、大きさ、数、色調および位置等を把握して体の構造を学び、体の構造が体の働きとどのように関係しているかを知り、身体の正常な状態を理解できるようにしたい。				
授業方針 と留意点	授業方針 人体の構造と生理を体系的に理解する。 留意点 人体の解剖学的構造と生理機能の理解。			
	<b>授業計画 後 期</b>			
	第1回 人体各部の名称 (キーワード)			
	第2回 細胞の構造と働き (キーワード)			
	第3回 骨格系と機能 (キーワード)			
	第4回 筋肉系と機能 (キーワード)			
	第5回 消化器系と機能 (キーワード)			
	第6回 消化器系と付属器官 (キーワード)			
	第7回 呼吸器系と機能 (キーワード)			
	第8回 呼吸器系と付属器官 (キーワード)			
	第9回 泌尿器系と機能 (キーワード)			
	第10回 泌尿器系と付属器官 (キーワード)			
	第11回 生殖器系と機能 (キーワード)			
	第12回 内分泌系と機能 (キーワード)			
	第13回 循環器系と機能 (キーワード)			
	第14回 神経系と機能 (キーワード)			
	第15回 感覚系と機能 (キーワード)			
テキスト	随時プリントを配布してすすめる。			
参考図書				
評価方法	出席を最重視し、レポート、定期試験等により総合的に評価する。			